

「酒天童子」 竹下文子/著 偕成社(YFタ) 平安の都をおびやかすのは、鬼をはじめとする物の怪たち。そんな怪異に立ち向かうのは、名刀「髭切」膝丸を携えた源頼光と、その部下である渡辺綱をはじめとした四天王たちだった。能や歌舞伎でも有名な、平安のヒーローたちの活躍やいかに!? 	「「悩み部」の結成と、その結末。」 麻希一樹/著 学研教育出版(YFマ) 「悩み部」。正確にいうと「悩み解決部同好会」である。構成メンバーは、今年永和学園に入学した1年生3人だけ。その活動内容は、文字通りひとの“悩み”を解決すること。 物語の最後には、いつも意外な結末が待っているというショートショート集。現在シリーズが3冊あります。	「竜宮ホテル 迷い猫」 村山早紀/著 三笠書房(YBFム)  空を泳ぐ魚、二本足で歩く三毛猫…。異世界のものが見えてしまう不思議な左の目と、その力を否定して生きている作家の響呼が偶然拾ったのは、猫の耳としっぽを持つ少女だった。住む場所を失くしたばかりの響呼たちが訪れたのは「竜宮ホテル」というクラシックホテル。そこは不思議な場所で…。	「少年弁護士 セオの事件簿 1」 ジョン・グリシャム/著 岩崎書店(Y933シ1) セオドア・ブーンは13歳の少年。両親ともに弁護士で、彼自身もいつか法律家になりたいと夢見ている。  そんなセオが、ゴルフ場で起きた殺人事件の謎に迫る! 法廷を舞台に、ベテランの弁護士顔負けの活躍を見せるセオの事件簿は、現在5巻まで発行されています。
「キスの運び屋」 ロベルト・ピウミーニ/著 PHP 研究所(Y973キ)  ある朝とつぜん新聞・ラジオ、そしてテレビから、ニュースがなにも流されなくなってしまった。その理由は“なにも起こらなかったから”。1週間が過ぎたころ、そんな世界に耐えられなくなった人がとった行動とは?——。 イタリア発の奇妙な短篇物語8つが収められています。	「ラスト・ラン」 角野榮子/著 角川書店(YFカ)  気ままに生きてきた74歳のイコさんは、「遺された人生でやっておきたいこと」を考え、バイク・ツーリングに出かけることにした。目的地は岡山。5歳のころ死別した母の生家だ。けれど、たどり着いた無人のはずの船宿には、不思議な少女が住んでいて…。	「浮いちゃってるよ、バーナビー!」 ジョン・ポイン/著 作品社(Y933ウ)  なんでも「ふつう」にこだわりのすぎる両親のもとに生まれたバーナビーは、最初からふつうとはほど遠い赤ちゃんだった。彼はぎゅっと捕まえていないと、ふわふわと宙に浮いてしまう体質なのだ。——みんなと「違う」のはいけないこと? 「ふつう」って、いったいなんだろう?	「といかえぼや物語 少年少女古典文学館 8」 田辺聖子/訳・著 講談社(Y918シ8)  右大臣家の男まさりの姫君・春風と、左大臣家の内気な若君・秋月が入れ替わって暮らすようになったとしたら? 平安末期に書かれた作品ですが、現代でも十分通用するおもしろ設定! 実際にこの物語をベースにした小説や漫画もあります。古典嫌いを克服してみよう!
「世界を信じるためのメソッド」 森 達也/著 理論者(Y361セ) “メディア・リテラシー”って単語を知っていますか? 難しそうに聞こえるけれど、要は“たくさんの情報の中から欲しい情報を選び、どれが正しいのか見極めて上手につかうこと”です。人間はカンタンにだまされる。じゃあそうならないためにはどうしたらいいのか? この本を参考に考えてみましょう。	「ぼくんちのティピバ騒動」 クリス・ダレーシー/作 徳間書店(Y933ボ)  中古ショップで売られていたティピバを気に入っていたぼくは、捨てられていたそいつを拾い「ホレース」と名づけた。だけどこのボロボロのクマが、とても高価なものかもしれない。アンティークのクマをめぐる、家族のきずなや初恋を交えて描かれるときどきの物語。	「じゃあ君が好き」 ヨシタケシンスケ/著 主婦と生活社(YEヨ)  なにげない暮らしの中で、ふと思い出したこと、思いつくこと、気になること。描いておかないと、きっと忘れてしまうような小さい小さいこと。そんな“ちょっとしたこと”を集めたゆる〜い絵本。	「介助犬を育てる少女たち」 大塚敦子/著 講談社(Y327カ)  アメリカ・カリフォルニア州にある「シエラ・ユース・センター」。この施設では、麻薬や窃盗、暴力など、さまざまな問題を抱えた少女たちが介助犬を育てています。犬との触れ合いを通じて、ゆっくりと心を再生していく姿を追ったノンフィクション。
「ピアノッシシモ」 梨屋アリエ/著 講談社(YBF十)  隣の家から流れてくるピアノの音色。それが幼い頃、松葉の心を慰めてくれる唯一のものだった。だが、そのピアノはあるときどこかへ運ばれていってしまう。 中3になった松葉は、そのピアノの持ち主を探す。それが同い年の紗英だったが、なにもかも正反対のふたりだったが……。不安定で繊細な心のかたちを描き出す物語。	「理系アノ榎太一の生物部な毎日」 榎 太一/作 岩波書店(289リ) いま人気のアナウンサー・榎太一の、意外すぎる青春の記録。筋トレと登山合宿は必須! とにかく体育会系の「生物部」に在籍した中高生時代。大学ではアナゴ採集のために船酔いと戦い、大学院でアサリ研究のために砂まみれ。そしてテレビ業界という未知の世界へ踏み出して……。生物オタクアナの思いがぎゅっとつまった1冊です。	「ないたて中学生 初級編」 ひこ・田中/著 講談社(YFヒ)  真新しい制服を着こんで校門の前に立つヘタレの“オレ”は、正直びびっていた。なぜなら、中学の入学式直前にひとつ隣の学区に引っ越したせいで、知っている友達がひとりもいなかったからだ。 3部作で描かれる、テツオの中学生生活。現在『中級編』まであります。	「前に進む千カラ」 北島康介/著 文藝春秋(Y785マ) 自分の力を信じて、もがき、あがいてきたからこそ、今の僕がある。 ふたりのアスリートからのメッセージ! 「夢をかなえる」 澤 穂希/作 徳間書店(Y783ユ) 夢は見るものではなく、かなえるもの。どうやったら自分の思いを実現させることができるのか?